

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(中学校)

第3編 各活動・学校行事ごとの学習評価について（事例）

【案】

第1章 特別活動の学習評価を行うに当たっての基本的な考え方

- 1 評価の手順
- 2 評価体制の確立
- 3 指導と評価の計画の作成
- 4 多面的・総合的な評価の工夫
- 5 評価機会の精選

第2章 学習評価に関する事例について

- 1 事例の特徴
- 2 各事例概要一覧

事例及び参考資料

第1章 特別活動の学習評価を行うに当たっての基本的な考え方

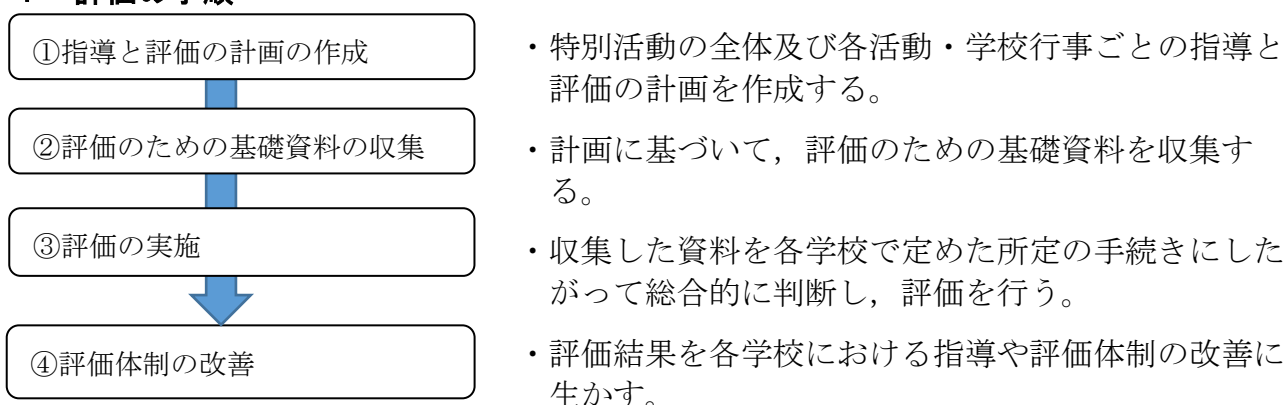
特別活動においては、第2編でも示したように、学習指導要領の目標及び特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、各学校が評価の観点を定めることとしている。

特別活動は、全校又は学年を単位として行う活動があり、学級担任以外の教師が指導することも多いことから、各学校には評価体制を確立し共通理解を図って、子供たちのよさや可能性を多面的、総合的に評価できるようにすることが求められる。

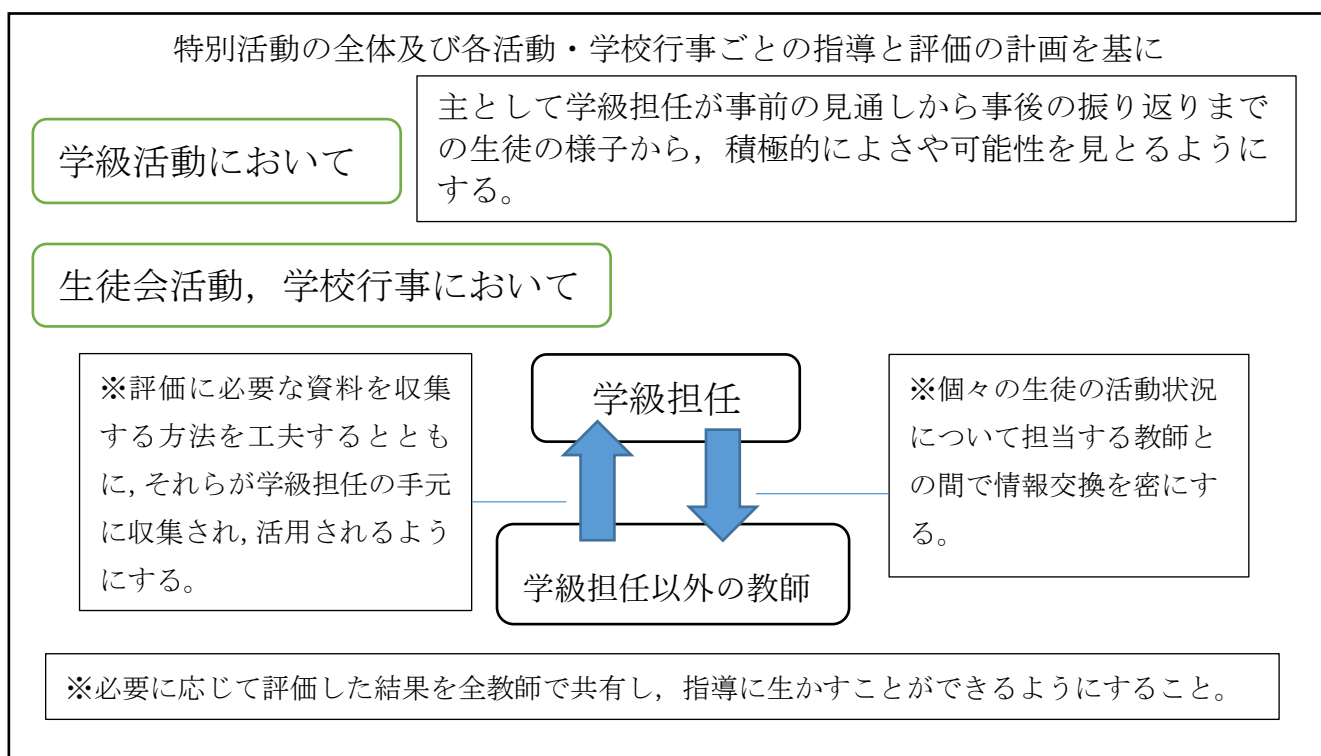
また、評価を通じて、教師が自己の指導の内容や方法、指導過程等を振り返り、より効果的な指導が行えるような工夫改善を図ることも求められる。

各学校においては、特別活動の特質を踏まえ、次のような評価の手順や留意点を参考にして、適切に評価を進めることが大切である。

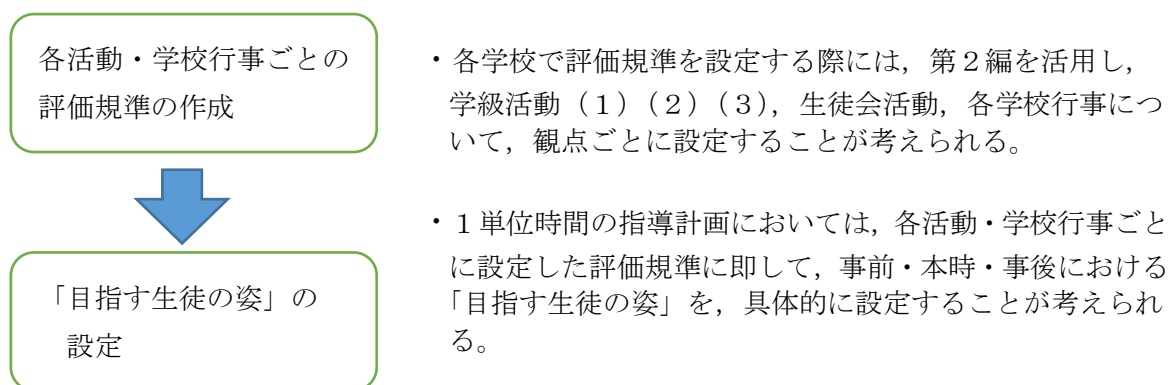
1 評価の手順



2 評価体制の確立



3 指導と評価の計画の作成



各学校においては、各活動・学校行事ごとに指導と評価を適切に位置付けた計画を作成することが大切である。特に、生徒会活動や学校行事については、学習指導要領第1章総則編第2（2）イにおいて、

特別活動の授業のうち、生徒会活動及び学校行事については、それらの内容に応じ、年間、学期ごと、月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとする。

と示されたことを受け、それぞれの目標やねらいが十分達成できるように、よく検討して適切に授業時数を充てるようにする。

4 多面的・総合的な評価の工夫

特別活動においては、生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題がもてるようにする評価を進めるため、活動の結果だけでなく、活動の過程における生徒の努力や意欲などを積極的に認めたり、生徒のよさを多面的・総合的に評価したりすることが大切である。

生徒一人一人を評価する方法としては、教師による観察が中心となるが、チェックリストや生徒自身の各種記録の活用など、評価方法の特質を生かして評価するようにする。特に、生徒が「活動に見通しをもって取り組み、活動を振り返って次の課題解決につなげたり、改善したりする」等、自主的、実践的に取り組むことができるようにするために、生徒の学習活動として、自己評価や相互評価を行うことも多い。したがって、観察による教師の評価と併せて、生徒自身による評価を参考にすることも考えられる。

また、生徒一人一人のよさや可能性を生かし伸ばす点から、好ましい情報や資料は、随時、当該生徒に伝えたり、学校で紹介したりすることが考えられる。

5 評価機会の精選

特別活動は、活動の積み重ねにより年間を通して生徒の資質・能力の育成を図るものである。すべての評価の観点について、事前・本時・事後の一連の学習過程の中で評価できるようにしたり、各活動・学校行事における顕著な事項は補助簿を活用して記録したりしておき、一定期間に実施した活動や学校行事を評価規準に基づき、まとめて評価するなど、効果的で効率的な評価となるよう配慮する必要がある。例えば学校行事において、「2年生では職場体験活動については

全員が振り返りを書くとともに活動の状況进行评估する」というように、一年間の学校行事を見通して重点化を図ることも考えられる。その際、一人一人の生徒が振り返りをカードに記録したり、教師が補助簿に記載したりするなど、記録に残し、評価に生かすようにする。

6 中学校生徒指導要録における特別活動の記録

各学校で定めた評価の観点を指導要録に記入した上で、各活動・学校行事ごとに、十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入する。学習指導要領に示す特別活動の目標や学校として重点化した内容を踏まえ、下の記入例のように、より具体的に評価の観点を示すことが考えられる。

【中学校生徒指導要録（参考様式）様式2（第2学年）の記入例】

特 別 活 動 の 記 録					
内 容	観 点	学 年	1	2	3
学級活動	よりよい生活を築くための知識・技能		○	○	
生徒会活動	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現			○	
学校行事	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度			○	
	余白			○	

全学年で共通した、各学校で定めた評価の観点を記入する。

評価の観点の変更がある場合を想定して、余白をとっておく。

十分満足できる活動の状況について

指導と評価にあつたては、各学校で「十分満足できる活動の状況とは「生徒のどのような姿」を指すのかを検討し、共通理解を図ってその取組を進めることが求められる。そのうえで、「目指す生徒の姿」に照らして、十分満足できる活動の状況がみられた場合に指導要録に○を付ける。

なお、生徒のよさや可能性を積極的に評価することが大切である。

第2章 学習評価に関する事例について

1 特別活動の事例の特徴

第1編第1章2（4）で言及した学習評価の基本的な方向性を踏まえつつ、平成29年改訂学習指導要領の趣旨・内容の徹底に資する評価の事例を示せるよう、本参考資料における各活動・学校行事の事例は、原則として以下のような方針を踏まえたものとしている。

特別活動は、全校又は学年を単位として行う活動があり、また、学級担任以外の教師が指導することもある。

このため、本参考資料（特別活動編）においては、学習指導要領に示された各活動・学校行事ごとに工夫例を交えながら評価の進め方や留意点等について記述している。

○ 1 単位時間や年間の指導と評価の計画を示している

本参考資料で提示する事例は、いずれも、各活動・学校行事における議題や題材、活動の一つ

を例にとり，1 単位時間の指導計画を示すとともに，「内容のまとまりごとの評価規準」に即して，本時における「目指す生徒の姿」を具体的に示した。

また，評価結果を生徒の学習や教師の指導の改善に生かすまでの一連の学習評価の流れを念頭において，事前から事後までの一連の学習過程を指導案の形で表し，「目指す生徒の姿」を本時の展開の中で具体的に示している。

○ 評価方法の工夫を示している

各活動・学校行事において，特別活動ファイルやワークシート，活動の振り返りなどを活用した評価方法や補助簿を活用した評価方法などを資料として提示するなど，特別活動の特質を踏まえて，評価方法の多様な工夫について示している。

また，特別活動は，全校又は学年を単位として行う活動があり，また，学級担任以外の教師が指導することもある。そこで，学級担任と各担当との連携の在り方についても示している。

○ 総括する評価について示している

特別活動は，各教科のように観点ごとの評価（ABC）や評定はなく，指導要録において，観点を踏まえて，各活動・学校行事ごとに生徒の取組を総括的に評価するものである。

学級活動については，学級活動（１）（２）（３）の各活動における評価を総括する評価の仕方など，評価を総括する例を示すとともに，学習カードを活用した評価の工夫例や，年間を通じた評価結果を蓄積する工夫例についても示している。

特別活動 事例3

キーワード 「生徒会活動の指導の計画から評価まで」

議題

全学年「学校生活を見直そう」

内容のまとめり

生徒会活動「生徒総会」

関連：学級活動（1）ウ「学校における多様な集団の生活の向上」

1 生徒会活動で育成を目指す資質・能力

- (1) 生徒会やその中に置かれる委員会などの異年齢により構成される自治的組織における活動の意義について理解するとともに、その活動のために必要なことを理解し行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 生徒会において、学校全体の生活をよりよくするための課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりすることができるようにする。
- (3) 自治的な集団における活動を通して身に付けたことを生かして、多様な他者と協働し、学校や地域社会における生活をよりよくしようとする態度を養う。

2 評価規準（内容のまとめりごとの評価規準）

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
異年齢により構成される自治的組織における活動の意義について理解している。 生徒会や委員会の活動のために必要なことを理解し行動の仕方を身に付けている。	生徒会において、学校全体の生活をよりよくするための課題を見出し、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりすることができる。	自治的な集団における活動を通して身に付けたことを生かして、多様な他者と協働し、学校や地域社会における生活をよりよくしようとしている。

3 一連の活動と評価（4時間）

	議題及び題材 ねらい・学習活動	具体的な目指す生徒像		
		よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
学級 活動	後期学級組織を決めよう	主体的に組織をつくること、役割を分担することの意義を理解している。		互いの個性を生かして主体的に組織をつくろうとしている。

放課後の委員会	各種専門委員会で学校生活の向上のために委員会として取り組む活動を考えよう		学校生活の充実と向上のために、委員会として取り組むべき課題を考えることができる。	
学級活動	生徒総会に向けて学級審議を行おう		執行部、各委員会からの提案が、学校生活の充実と向上につながる活動になっているか考えることができる。	学校生活の充実と向上を図るために、学校全体の生活の課題を見いだそうとしている。
帰りの会	質問・意見に対しての回答集について検討しよう		学級審議を通して出した意見や質問に対する回答について、検討することができる。	
生徒総会	学校生活を見直そう	協働して実行するために必要な計画や運営、合意形成の仕方などを身に付けている。	学校生活の充実と向上のための課題や提案を生かした活動の計画について考えている。	互いの個性を生かして協力し、積極的に学校生活の充実と向上を図ろうとしている。

4 学級活動「生徒総会に向けて学級審議を行おう」について

(1) 議題

- ・生徒総会に向けて学級審議を行おう。

(2) 目指す生徒像

- ・執行部、各委員会からの提案が学校生活の充実と向上につながる活動になっているか考えることができる。
- ・学校生活の充実と向上を図るために学校全体の生活の課題を見いだそうとしている。

(3) 本時の展開

	学習内容及び学習活動	目指す生徒像／指導上の留意 ○評価について
--	------------	--------------------------

導入	0 議案書を読む 1 議案書審議のねらいについて共有する ・全校のこれからを決める大切な総会に向けての学級審議の時間であることを学級全員で確認する。 ・リーダー学年としての自覚をもって話し合いに参加する。 2 学習課題を確認する	・建設的な話し合いになるように、審議のねらいを全体で共有する。
展開	生徒総会に向けて学級審議を行おう 3 執行部から後期のスローガン・基本方針を提案する ・全校が関わる後期のスローガン、基本方針について、執行部から提案する。自分事として審議に入ることができるよう、ねらいをもって提案する。 4 班ごとに審議する ・執行部からの提案について、個人の意見を班ごとにまとめる。全校の活動がよりよくなるように建設的な意見を述べるようにする。 5 各委員会担当からの提案する ・各委員会担当から後期の活動について提案する。 6 班ごとに審議する ・委員会担当からの提案について、個人の意見を班ごとにまとめる。全校の活動がよりよくなるように建設的な意見を述べるようにする。	・提案に対して、個人で意見をもてるようにする。 ○執行部からの提案が、学校生活の充実と向上につながる活動になっているか考えることができる。 ・専門委員会に主体的に臨んだうえで、学級審議に入れるようにする。 ○各委員会からの提案が、学校生活の充実と向上につながる活動になっているか考えることができる。
終末	7 本時の振り返り ・生徒総会に向けて、学校をよりよくしていくという視点に立って学級審議に臨むことができたかどうかを振り返る。	○学校生活の充実と向上を図るために、学校全体の生活の課題を見いだそうとしている。

5 生徒総会「学校生活を見直そう」について

(1) 議題

- ・学校生活を見直そう。

(2) 目指す生徒像

- ・学校生活の充実と向上のために、目標を設定し、主体的に組織づくりや役割分担を行って協働して実行することの意義を理解している。協働して実行するために必要な計画や運営、合意形成の仕方などを身に付けている。
- ・生徒総会や各種の委員会において、学校生活の充実と向上のための課題や生徒の提案を生かした活動の計画について考えている。
- ・集団の形成者として、多様な他者と、互いの個性を生かして協力し、積極的に学校生活の充実と向上を図ろうとしている。

(3) 本時の展開

	学習内容及び学習活動	目指す生徒像／指導上の留意 ○評価について
導入	0 開会のあいさつ（生徒会長） 1 議長を選出する 2 議案書審議のねらいについて共有する ・生徒総会を通じて学校生活を見直し、よりよいものにしていく意義を確認する。 ・全校生徒一人一人が自分事として捉えることができるように促す。	・建設的な話し合いになるように、審議のねらいを全体で共有する。
	学校生活を見直そう	
展開	3 執行部から前期の活動内容や決算を報告する ・全校で行った活動内容や決算について、執行部から報告する。 4 審議，合意形成する ・執行部からの報告について、あらかじめ学級審議した結果を基に建設的に述べるようにする。 ・挙手により個人の判断結果を明らかにする。 5 執行部から後期の基本方針，活動計画，予算を提案する ・全校が関わる後期の基本方針，活動計画，予算について、執行部から提案する。自分事として審議に入ることができるよう、ねらいをもって提案する。 ・執行部及び美化委員会からの提案事項である「全校合唱」「地域美化清掃」について提案する。 6 審議，合意形成する ・執行部及び委員会からの提案について、あらかじめ学級審議した結果を基に修正意見などを建設的に述べるようにする。 ・挙手により個人の判断結果を明らかにした上で、練り上げた合意を受け止め、その実現（実践）に向けて見通しをもつ。 7 決定事項を確認する	○執行部からの提案が，学校生活の充実と向上につながる活動になっているか考えることができる。 ・提案に対して，個人で意見をもてるようにする。 ○執行部や各委員会からの提案が，学校生活の充実と向上につながる活動になっているか考えることができる。 ・提案に対して，個人で意見をもてるようにする。 ○互いのよさや可能性を生かした合意点を探ることができる。 ○練り上げた合意を受け止め，その実現（実践）に向おうとすることができる。
	8 本時の振り返り ・学校生活をよりよくしていくという視点に立ち，生徒総会に臨むことができたかどうかを振り返る。	
終末		○学校生活の充実と向上を図るために，課題解決の方法を見だし，実践に向おうとしている。

6 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 単位時間ごとの振り返り

単位時間ごとに振り返りを書き、それぞれの評価項目について見とる。

① 後期学級組織を決めよう。

振り返りシート

- | | |
|---|---------|
| 1. 主体的に組織決定の話し合いに臨むことができた | 4・3・2・1 |
| 2. 役割を分担することの意味を考えて話し合うことができた | 4・3・2・1 |
| 3. 個性を生かすことができるように役割分担することができた | 4・3・2・1 |
| 4. これから学級のために自分がやるべきこと、頑張って取り組んでいくべきことを書こう。
(自由記述) | |

② 生徒総会に向けて学級審議を行おう。

振り返りシート

- | | |
|---|---------|
| 1. 主体的に学級の話し合いに臨むことができた | 4・3・2・1 |
| 2. 執行部からの提案が、学校生活の充実と向上につながる活動になっているか考えることができた | 4・3・2・1 |
| 3. 各委員会からの提案が、学校生活の充実と向上につながる活動になっているか考えることができた | 4・3・2・1 |
| 4. 学校生活の充実と向上を図るために、学校全体の生活の課題を見いだそうとした | 4・3・2・1 |
| 5. これから学級・学校のために自分がやるべきこと、頑張って取り組んでいくべきことを書こう
(自由記述) | |

③ 学校生活を見直そう。

振り返りシート

- | | |
|---|---------|
| 1. 主体的に全校の話し合いに臨むことができた | 4・3・2・1 |
| 2. 学校全体の課題を解決するために話し合うことができた | 4・3・2・1 |
| 3. 学校生活の充実と向上を図るために、学校全体の生活の課題について解決策を考えようとした | 4・3・2・1 |
| 4. 生徒総会を終えて、改めてこれから学級・学校のために自分がやるべきこと、頑張っていくべきことを書こう (自由記述) | |

(2) 単元の振り返り

組織の決定から、学級審議、生徒総会を通して、「生徒会」の活動にどのように関わっていくことができるのかを考えることができているかを、単位時間の振り返りから総括的に評価する。

特別活動 事例4

キーワード 「学校行事の指導の計画から評価まで」

議題・題材（テーマ）

第2学年「合唱コンクール」

内容のまとめり

学校行事（4）文化的行事

関連：学級活動（1）ア「学級や学校における生活上の諸問題の解決」

1 学校行事で育成を目指す資質・能力

- (1) 他の生徒と協力して日頃の学習や活動の成果を発表したり、美しいものや優れたものを創り出し、自ら発表し合ったりする活動に必要な知識や技能を身に付けさせる。
- (2) 他の生徒と協力して日頃の学習や活動の成果を発表したり、美しいものや優れたもの、芸術的なものに触れたりして、自他の個性を認め、互いに高め合うことができるようにする。
- (3) 集団や社会の形成者として、互いに努力を認めながら協力して、よりよいものを創り出し、発表し合うことによって、自己の成長を振り返り、自己のよさを伸ばそうとする態度を養う。

2 評価規準（内容のまとめりごとの評価規準）

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
合唱コンクールに向け、学級の仲間と目標を共有している。 目標の実現に向けて努力することの大切さを理解している。	合唱コンクールに向けて学級の目標を設定し、その実現に向け努力している。 学級のために自分ができることを考え、行動することができる。	学級の仲間と協力し、よりよい合唱にするために努力しようとしている。また、自己の成長を振り返り、自己のよさに気付き伸ばそうとしている。

3 一連の活動と評価（4時間）

	議題及び題材 ねらい・学習活動	具体的な目指す生徒像		
		よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
学校行事	今年の合唱コンクールの目標を作ろう。	合唱コンクールに向けて、学級の目標を立てることの意味を理解している。	学級の仲間の考えを尊重しながら、合意形成を図ることができる。 理想を実現するために自分がすべきこと、学級のためにできることを考えている。	合唱コンクールを終えたときの理想をイメージして、目標を考えようとしている。

帰りの会	学級スローガンを達成するために、個人の目標を立てよう。	学級の仲間と目標を共有することの大切さを理解している。		理想を実現するために自分がすべきこと等に取り組もうとしている。
学校行事	中間発表会をしよう。	他学級と交流することのよさを理解している。	他学級のよさを考えることができる。 これまでの自分の取り組みについて振り返ることができる。	他学級の合唱から、よさをみつけようとしている。これまでの練習で自分ができたこと、してもらったことをみつけようとしている。
学校行事	合唱取組の中間振り返りをしよう。		学級で定めたスローガンに向けて今までの自分の取り組み方がどうだったかを振り返ることができる。	「なりたい自分」「学級をこうしていきたい」という理想に近づけているか振り返り、学級の合唱をよくしようとしている。
帰りの会	合唱練習を充実させよう。		学級で決めた方策に取り組むことができている。	
学校行事	合唱コンクール「互いのよさを生かそう」	目標に向かって互いのよさを生かし合い、努力することの大切さを理解している。	互いのよさを生かし合うために自分ができることを考えることができる。	互いのよさや可能性を生かし合い、よりよい合唱をつくろうとしている。
学級活動	合唱コンクールを振り返ろう。	仲間と協力し、目標に向かって努力することの大切さを理解している。	仲間と協力して取り組んだことで、これから学級のために自分ができることを考えることができる。	合唱への取り組みを振り返り、自己の成長に気づき、よさを伸ばそうとしている。

4 学校行事「(中間発表会直後) 合唱取組の中間振り返りをしよう」について

＊ 中間発表会と連続した時間を用いて学校行事として実施する話し合い活動の事例

(1) テーマ

- ・合唱取組の中間振り返りをしよう。

(2) 目指す生徒像

- ・学級で定めたスローガンに向けて今までの自分の取り組み方がどうだったかを振り返ることができる。
- ・「なりたい自分」「学級をこうしていきたい」という理想に近づけているか振り返り、学級の合唱をよくするためにこれからの方策を考えることができる。

(3) 本時の展開

	学習内容及び学習活動	目指す生徒像／指導上の留意 ○評価について
導入	0 中間発表会の振り返りをする ・プリントに各自成果と課題を記入する。 1 成果と課題を交流する ・3分前学習でそれぞれが記入した成果と課題を交流し、今の自分たちの現状を把握する。 2 学習課題を確認する。	・音楽的なことだけでなく、態度や心構えについて考えられるようにする。 ・明らかになった成果と課題について、なぜ成果とすることができたのか、なぜいまだに課題となっているのかを考えられるようにする。
	合唱取組の中間振り返りをしよう	
展開	3 個人で考える ・成果と課題からこれからの練習をよりよいものにするために個人で具体的な方策を考える。 4 班で考える ・班員の考えから、学級の活動のために必要な方策を考える。 5 全員で決める ・各班の案から、これからの合唱練習で取り組んでいく方策について決める。	・これからの合唱練習に取り入れられるものを具体的に考えさせる。 ○これまでの成果と課題から、具体的な方策を考えようとしている。 ・班員の考えから班で考える方策を3つに絞り、順位付けをさせる。 ○学級の合唱をよくするためにこれからの方策を考えることができる。 ・全員で取り組む方策にするために話し合い、合意形成を図る。 ○互いのよさや可能性を生かした合意点を探ることができる。
終末	6 これからの自分について考える ・「なりたい自分」に近づくために、「互いのよさを生かすために」自分ができることすべきことについて、改めて考える。	・「自分がどうなりたいのか」、「互いのよさを生かすためにできることは何か」について新たな見通しをもたせる。 ○練り上げた合意を受け止め、その実現（実践）に向おうとすることができる。

5 評価の進め方

(1) 学習プリントを用いた評価

単元のスタート時に行事（合唱コンクール）を通して目指す姿を具体的にし、その実現に向けて取り組む中で、どのように変容しているか学習プリントの記述から評価する。

① 自己評価

- ・学級の合唱コンクールに向けたスローガン作りをしたときに、個人の目指す理想の姿を具体的に目標設定することができたかを振り返る。
- ・取り組みの中で、「自分がこうなりたい」「互いのよさを生かし合う」と掲げた姿に近づくことができたかを具体的な場面を想起して振り返る。特に、自分の中で変わった部分、人のために頑張ることができた部分について考えさせることで、自己の成長に気付かせる。

② 仲間からの評価・仲間への評価

- ・「学級のために自分ができること」「互いのよさを生かし合う」に取り組んだ結果、仲間からどのように見られていたかを知ること、自己の成長につなげる。また、仲間からしてもらってよかったと思うことをフィードバックすることで、これから自分が学級のためにさらにできることがあるかという視点で考えさせる。